

地域課題・目指す将来像

地域課題

- 高田松原津波復興祈念公園は敷地が広範で移動距離が2kmを超えることから、移動が困難な人も含めた**移動手段の確保**と、より効果的な**伝承活動の促進**が課題
- 地域内では、交流の場や日常不可欠な活動の移動等、**モビリティの改善**及び**生活の足の確保**が課題

将来像

- 自動運転サービスの活用により**観光客の満足度向上**とともに、**高齢者や障がいのある方を含む地域雇用機会の創出**と、**関連企業等の誘致・移住者の増加**により、**誰もが生き生きと笑顔で過ごせる「ノーマライゼーションという言葉のいらないまち」**を目指す

推進体制



課題解決に向けた取組

高田松原津波復興祈念公園を起点とした
自動運転サービス社会実装

- 環境に配慮した再生可能エネルギーで走行する**グリーンスローモビリティ**等を活用し、高田松原津波復興祈念公園内及び各震災遺構をめぐる自動運転サービスの**実装**
- 自動運転サービスと高田松原津波復興祈念公園内の**パークガイド**とが連携し、震災や復興の状況を**ストーリー**として利用者へ提供することによる効果的な**震災伝承活動**
- 通信予測制御技術等を活用した複数台の自動運転車両の**遠隔監視**や**運行間隔**等の制御
- 高田松原津波復興祈念公園内での**実証結果**や活用した技術等を活用し、市内公共交通へ展開することで、交流の場への移動や日常生活に不可欠な活動（買い物、通院、通学）の移動等、**地域コミュニティの形成**等の課題解決にも繋がるよう検討



(自動運転サービスによる運行ルート案)



(自動運転車両のイメージ)

2022年度の
主な取組

- 自動運転サービスの**実証実験の実施**
- 実証実験の効果等を検証するとともに、**社会実装に向けたインフラ整備の関係機関調整**を開始
- 地域の実情に合った自動運転サービスの**在り方**について検討

取組内容

パークガイドと連携した自動運転走行実証実験（2022年9月10日～9月30日、2月1日～3月5日）

- 自動運転走行によるグリーンスローモビリティを活用し、広大な高田松原復興祈念公園内の移動手段の課題解決および効果的な震災伝承活動に向けた検証を目的として実施
- 実証実験の特徴
 - ・面積約130haの広大な公園に点在する震災遺構等を結ぶ、全長約4kmのコースを運行（第1回は西側ルートのみ、第2回は東側ルートへ拡大して運行）
 - ・高田松原復興祈念公園内のパークガイドが同乗する便も運行し、震災や復興の状況をストーリーとして利用者へ提供
 - ・自動運転レベル2で地元ドライバーによる運行（第2回）
- 利用者数は、第1回は延べ780人（1便あたり平均乗車人数4.9人）、第2回は687名（1便あたり平均乗車人数2.9人）
- アンケート結果により、「自動運転車両への乗車体験」「予定になかった場所へ向かうきっかけ」「パークガイドの利用」について利用者から高い評価を得た。



実証実験の様子



運行ルート